

第24期生が卒業式を迎えました

このたび、私たち3年生69名は3月4日をもちまして、三重中央看護学校を卒業しました。

思い起こせば本日に至るまでの3年間は長いようで短くも感じます。1年次では、今までの学校生活とは異なり、専門的な知識や技術を学び、喜びを感じながらも、次々に行われる技術試験や筆記試験に必死な思いでした。初めての基礎看護学実習では、患者さまとのコミュニケーションや援助に戸惑いながらも、病棟で働く看護師さんの姿を見て、自身の看護師像を深める機会にもなり、看護師になりたいという思いが強くなりました。2年次では、さらに専門的な講義や実習になり、課題の多さに、これからやっていけるだろうかと自問したこともありました。その反面、看護師の役割と責任を感じると共に、その素晴らしさも実感することができました。3年次では、新型コロナウイルスの感染が拡大する中、実習を引き受けていただいた病院関係者の方や患者さま、私たちが十分に学習できるようにサポートくださった先生方のおかげで、無事に実習を終えることができました。領域別実習では多くの事前学習や技術練習をして臨みましたが、患者さまに応じた援助を計画することができず、自分の無力さに落ち込むこともありました。そのような時、実習指導者の方が共に考え、丁寧に教えてくださいました。先生方は私たちなりの援助の方向性が見出せるようにアドバイスをくださり、毎日一人ひとりに声をかけ寄り添ってくださいました。また、患者さまから温かい言葉をいただくたびに、看護する楽しさや、やりがいを感じるすることができました。さらに、私たちが看護師になるという夢を諦めずにここまで来ることができたのは、どんな時も私たちを信じて見守り、背中を押してくれた家族の支えがあったからです。そして、時には共に涙を流し、時には大声で笑い合い、どんな時でも隣で支えてくれた仲間がいたからです。みんなに出会い、共に学ぶことができたのは、かけがえのない財産です。

4月からは新社会人として就職する者、進学する者とそれぞれの道は異なりますが、3年間の学びとこれまでに会った方々への感謝の気持ちを胸に、新たな一歩を踏み出していきたいと思います。まだまだ未熟な私たちですが、今後ともご指導、ご鞭撻をいただきますようお願い致します。

三重中央看護学校 第24期生一同

